

平成29年度第1回北海道アザラシ管理検討会開催結果

日時：平成30年3月26日（月）13:30～15:30

場所：かでる2・7 1050会議室

■開会（事務局）

■挨拶（動物管理担当課長）

- ・この検討会は、アザラシ類の現状や漁業被害対策などについて、専門的かつ科学的な評価、検討を行うために設置されたもの。
- ・本日の検討会では、平成29年度調査事業の実施結果や被害金額だけでは把握できない漁業被害の実態についての聞き取り調査結果を報告していただくとともに、北海道アザラシ管理計画第1期計画の実施結果及び評価（平成29年度時点）及び平成30年度事業実施計画（案）についてご議論をお願いします。

■議題

- 1 平成29年度調査事業について・・・小林座長から資料1より説明
- 2 北海道アザラシ管理計画第1期計画の実施結果及び評価（平成29年度時点）
・・・事務局から資料2, 3, 4, 5より説明
個体数について・・・小林座長から資料1より説明
漁業被害調査結果・・・宮内構成員から資料6により説明

[●・・・構成員、 ○・・・オブザーバー、 ⇒・・・座長、 →・・・事務局]

[主な意見]

- 礼文の定点カメラの観測結果では、観察頭数が半分ぐらい減っているのに目視による調査では増えているので、結果として、この4年間での周年定着個体数は減っていないという解釈になっているかと思えます。（資料3 P1表1）
しかし、実際には、平成27年の横棒（データ無し）のところはすごく多くなる可能性があるのです。そうすると、もともとが800頭ではなくて、この時点で過小評価していて、本当は2,000頭ぐらいいたものが減ったという考え方もできるのかと思えます。
⇒ 管理計画の中では、平成25年と比較するというのが前提にあるので、（H25年当時に礼文は目視による調査だったのでH27以降も目視による調査結果としています）、H25年時に定点カメラを置いていたらもっと多かったかもしれません。減ってはいないといっているのかどうかは不明です。
- そうすると、この事業としては、捕獲をやってみただけでも、まだ結果が伴っていないという評価になってしまうと思うのですが、それは仕方がないのでしょうか。浜の実感としては減っていると聞いていますし、個体数が増えているベンサシでは捕獲はやっていないのですね。そういうところを入れてしまって、減っていませんという評価にしてしまっているのかという気がしています。
⇒ いろいろと注釈を入れる必要があるのかと思っているのですが、少なくとも有害駆除をすることによって、トド島からベンサシに移っているという実証データもありますので、これも一つの正しい情報ではないかと思えます。
ベンサシについては、本当に目視調査だけなので、そこが正確にわからないということがあります。トド島を見ると激減しているということだけは事実だと思っております。表的には減っていないのですが、駆除をしていた効果は高いだろうという認識でいます。

3 平成30年度事業実施計画（案）について・・・事務局から資料3より説明

[主な意見]

- 目標設定が夏期個体数を半減させるということで、今年はやってみただけでも、全く減っていないということです。

来年度の計画を拝見しますと、また同じようなことを続けるということです。同じことを続けるとなると恐らく来年も同じようなことが起こって、それで大丈夫なのかという疑問があります。

- ここ数年で捕獲や追い払いの頻度などが上がってきていると認識しているのですが、もしそれをやめるとなると、恐らくアザラシの個体数はもっと増えるような状況になると思っています。そうはいっても、個体数が変わっていない状況がありますので、少しでも被害を軽減できる捕獲手法を確立することと、来年もまた漁組さんなどを回る機会がありますので、もう少し捕獲圧をかけるをお願いすることを考えております。

- 現場の感覚からいくとアザラシは減っているということで、ある程度のことをなさっていることについては、よい評価をいただいているように見えます。

しかし、肝心の管理事業では目標設定に照らして評価を下さざるを得ないので、現場の感覚と事業そのものの評価に齟齬が生じてしまうというところがあるのです。それはもったいないという気がする次第です。

- そもそもこの計画を立てた理由を掘り起こす必要があるのかどうかなのですが、生態がまだわかっていない状況で目標を設定したということがあり、並行してやっつけていかざるを得ないと思っております。

目標などについて時点修正するタイミングをこの会議に諮っていく必要や、個体数についても、推移とかその辺も同時進行でやっつけていかざるを得ないと思っております。

事務局としては、ご指導をいただきつつ、また、被害がある道北以外の部分については被害や、現地の状況も聞き取っていきながら同時進行でやっつけていくしかないと思っております。

- 全体の2分の1を減らすということは、道全体のざっくりした目標で、本当は地域によってその目標が違って構わないのではないかと考えています。

この計画には、現地報告会というものをに入れていただいております。私の提案として、これを単に報告会にしないで、ここで少し被害認識調査をして、話し合いの場を持って、この地域ではもう少し捕獲圧を強めないといけないう議論をしたほうがよいと思います。

その辺も含めて、市町村、漁協、研究者を含めて議論をするという場をぜひつくっていただく必要があると思います。

- ⇒ 北海道の日本海側と一くくりにしていますが、夏に全然被害が無いようなところは、もしかしたら対策を求めているのかもしれないということがあります。でも、放っておけば上からやってくるか、あちらで駆除したらこちらに来てしまうとか、そういう問題がいろいろなつながりであると思うので、現場の声はすごく重要視する必要があると思います。

- アザラシの減少については、漁協の感覚的な思いも含めて確かに減っているということを耳にすることはあります。

ただ、例えば、追い払いとか、いろいろな活動をすることで、実際にアザラシが違うところに逃げていくような行動をすることがあります。これは、今、トドもそういう動きがあるということで、あわせて発言させていただきます。

それは礼文のほうにつきましては、一部がトド島から香深の南（ベンサシ）のほうに行ったり、また陸側の抜海ではノシャップから宗谷岬にかけて、特に弁天島あたりのほうに移動したりすることだと判断されます。言い換えれば稚内、声間、宗谷での上陸を含めた被害、目撃が増えてきているということ

だと思えます。

今の状況においては、多分、前の年の結果を翌年、つまり翌々年度に計画を反映させているということだと思いますが、このまま見ていくと、2年後、3年後、4年後も、最終的にも同じようなことを繰り返す、これで終わっていくことが非常に怖いというふうにも思えます。

先ほど、座長から空気銃を使ったり、いろいろな手法をその年度、年度の中で取り入れていくというようなお話がありましたが、次のステップ、次のステップというふうに、毎年毎年の的確な検証をお願いできればと思いますので、その辺もお含みいただければと思います。

最初に申し上げた通り確かに、船泊さんなどの組合さんからは、見た目では減ったと聞こえています。それは北るもいさんも含めてですが、私たちとしても同じ感覚でいますので、よろしくをお願いします。

⇒ 動物の動きを確実に把握する、個体数を確実に把握することはなかなか難しいことですが、もちろん効率よくやる方法はあると思います。それから、今いただいたご意見のように、毎回同じことをやっているのではなく、なるべく新しいポイントを持って、何か違うことや視点を変えてやるような調査が重要だと思っております。先ほどありました現地報告会でそういうご意見をいただいたりすることも意義があると思います。

→ このもともとの計画は、アザラシ類の共存と漁業被害の低減ということで、個体数を減らすということもありますが、漁業被害が低減できていけば、それはそれで目標に沿ったものかと事務局として考えております。座長が言われたように、来年度は新規に現地報告会やろうと思っておりますが、その際には、座長がやられている最新の研究、それから、きょうオブザーバーでお見えになっている環境省さんのゼニガタアザラシに係る漁網の改良とか忌避装置の改良研究などもその現地報告会でご報告させていただきたいと思えます。関係者や漁業者さんがこういう方法もあるのだ、こういうふうに行っている、ぜひうまくいくかもしれないという情報提供を頑張ってやっていきたいと思っております。

現地報告会の開催の場所や回数などについては、これから構成員の方々を含めてご相談させていただきたいと考えております。

■閉会（事務局）

来年度の検討会につきましては、来年度の実施計画の評価と次の年の実施計画について検討していただくこととなります。開催日程は別途調整します。